

## “学問のすすめ”

理事 中村 春俊

最初に自己紹介です。1948年（S23年）に新潟・長岡市で生まれ血液型もニイガタです。生家は連合艦隊司令長官・山本五十六の生家の近くでした。5歳の時に東京・墨田区に引越、小学3年の時に横浜・西区に引越しました。引越先小学校では、毎回やるテストやるテスト百点満点で「東京から神童が来た」と先生も喜んでいました。これには実は訳があって当時（今は知りません）東京と横浜では教科書・テストが全く同じで東京の方が授業が約一か月進んでいて、同じテストですから二回目は簡単に百点取れます。約一か月が過ぎ教科書の新しいページに入った所でメッキが剥がれて、「神童」も並みの生徒になってしまいました。

中学に入って、近所で「成績が上がる」と評判の塾に通い始めました。確かに成績はぐんぐん良くなりました。塾では毎回テストをやりますが、後で知ったのが塾の先生達は実は近隣の中学校の本当の先生で、夜アルバイトで教えに来ていました（今ではこんなことはないと思いますが）。少し経つと学校で同様のテストが出るので当然良い点をとれる訳です。それでも錯覚で、成績が良くなれば勉強も楽しくなり、しまいには高校生用の参考書を買って見るようにもなりました。

横浜では海洋少年団に入団して、その頃読んだマンガに外航船員になれば、①給料が陸の三倍、三年乗船すれば家が建つ ②乗船中は食事はタダで、タダで外国に行ける ③乗船中は酒・タバコが免税で買えるとあり「外

航船員になろう」と決めて「船乗りなら船長でしょう」と云う親の勧めもあり、鳥羽商船・航海科を受験し合格しました。当時は受験会場が関東方面は東京商船大学（現、海洋大学）



で行われ、帰宅して親に云ったら「大学に行けば」と云うことになり普通高校に変更しました。

当時、数学の成績が悪く何とかしようと思い、旺文社の数学解法辞典（厚さ10cm位）を購入し毎日2~3ページを破いて通学中に目を通し、憶えたら帰りにゴミ箱に捨てていきました。昔、聞いた話で英単語を覚えるのに毎日英語の辞書を破いて憶えたら、それを食べてしまうのと同じことです。一冊全て捨てた後は数学も得意科目になりました。

高校を卒業して商船大学に受験に行きましたが、当時、航海科は裸眼視力が1.0ないと駄目で止むを得ず機関科に変更しました。

鳥羽商船に行っていたら、船長、パイロットになっていたと思います。

大学では殆ど勉強はせずに毎日、学生寮の裏手にある常盤（ときわ）という小料理屋に通っていました。ただし、授業には必ず出て、授業開始から暫く誰が真面目に授業を聞きノートを取っているかを確認したら、階段教室の最上段に行って持参した毛布と枕で寝ていました。そして、試験一週間前位になったらその人物を常盤に誘って一杯奢り、ノートを

一日借りて目を通して無事試験をパスしていました。

もう一つ、中学～大学と一貫して実行していたのが教科書に目を通すとき、片っ端から憶えるのではなく自分の立場を 180 度変えて、自分が先生として教科書を見てみることです。いつも受身の生徒ではなく先生として見た場合、「これだけは憶えて貰いたい」「理解して貰いたい」という部分が必ずあるはずで、それを完全に憶えることで、殆どが基礎問題ですが、これでテストは 6～70 点位は取れます。後の 2～30 点位は更に勉強した人のために、残りの 10 点位は引っ掛け問題です。

この様にして卒業と同時に受けた海技免状（国家試験）でも「甲長（甲種機関長）一発」で合格し、「ろくに勉強もしてないのに」と回りの皆が（常盤のママさんも含めて）ビックリしていました。

この、小生があみだした「立場 180 度転換法（相手の身になって、考えてみる）」は、社会人になっても有効な手段でした。もし、勉強がいまいちの人、できないお子さんをお持ちの方はぜひ、参考にしてみてください。

ただし、上述にあるような一か月先を勉強して成績を上げる等は、長い人生の中では単なる錯覚で何にもならないが、成績が上がって勉強することが楽しくなれば素晴らしいことで、これが目的です。生涯勉強です。念の為。